

令和6年度

事業計画書

自 令和6年4月 1日

至 令和7年3月31日

公益財団法人 多田清文化教育記念財団

令和6年度事業計画書

1. 令和6年度事業の実施方針

令和6年度は、勝山市制70周年に当たり、3月16日に北陸新幹線福井敦賀開業と10月に北陸初となる北陸デスティネーションキャンペーン(地元自治体・観光関係団体・JR6社による宣伝)が行われます。また、国の北陸応援割が発表されたことで、福井県内は様々なイベントが開催される予定で、より多くの方々が福井に来られることが予想されます。

当館としては、新しい試みに「勝山城博物館 龍コレクション展」(仮称)を開催します。今年は辰年にあたり、当館の建物には勝山市に流れる九頭竜川に、ちなんだ9体の龍のレリーフが城壁にあります。他に龍の館蔵品もあり、これらのコレクションを展示公開します。

共催特別展覧会は、「平泉寺白山神社三十三年御開帳プロローグ展” Prologue Exhibition”」(仮称)を開催します。令和7年5月から平泉寺白山神社三十三年祭(御開帳)が開催されます。その序幕として当年度から2年をかけて白山平泉寺の歴史を紹介します。

勝山市と当館とのコラボレーションにより、勝山市の歴史、伝統文化等を残された資料を通して展示公開します。

その他、例年の通り19回目となります絵画作品展「勝山とお城を描こう」は、奥越地区に根付き、長年の積み重ねが評価されて継続事業として続いています。出品者の力作を当館及び市内のショッピングセンターに展示いたします。

これらの展示会を開催することで多くの方が足を運んでいただけるよう工夫し、魅力ある博物館として入館者が増えるよう考えております。

そして、当館ホール等を貸し出す貸館事業、そして、今では博物館の大きな支えとなっている勝山城友の会事業が令和6年度の主な事業活動です。

今年は学芸員の交替がありました。その影響で、予定していた事業のうち一部の実施を取り止めましたが、新しい学芸員の下、また新たな視野・観点で今までとはまた趣の違う展示を作っていくことができます。勝山市との市文化財の展示、保存や管理を柱とする連携協定を基に、今後もこの連携をより充実させ、勝山市の文化財保護・活用に貢献し、積極的に開拓していきたいと考えております。

観光にも力を入れ、その準備として勝山市、勝山商工会議所、勝山市観光まちづくり株式会社による勝山観光戦略協議会の活動に参加し、他に、広報として新たに当館の公式アカウントでSNSを取り入れました。今後、ホームページの全面リニューアルも行い、観光施策や広報もよりやりやすい形を整えていきたいと考えております。

博物館運営に、低迷し続ける状況を打破していくには、地道な活動をしていくしかないものと考えます。

博物館の魅力を常に創造し、アピールし、チームワークを円滑にする環境づくりを心掛けてまいります。

2. 事業の概要

(1) 主な事業

① 「勝山城博物館 龍コレクション展」(仮称)

日程 令和6年4月28日～9月1日(予定) (水曜通常休館)

今年は辰年にあたり、当館の城壁には9体の龍のレリーフがあり、このレリーフを看板として当館に来てもらえるよう発信していきたいと考えております。龍にかかわる館蔵品の展示公開、勝山市に残る伝説等の紹介、他にクローバーグループとの連携により龍の所蔵品の紹介をします。

博物館の魅力は主に甲冑や刀剣、火縄銃に興味を持たれるため、観覧に来られますが、それらに描かれた龍を多くの方々に見ていただき、当館の展示に興味をもってもらえるようパワースポット的な場を作りたいと考えております。

② 勝山市・勝山城博物館連携第10回共催特別展

「平泉寺白山神社三十三年御開帳プロローグ展” Prologue Exhibition”」
(仮称)

日程 令和6年9月上旬～11月上旬(予定) (水曜通常休館)

令和7年5月23日に開催する平泉寺白山神社三十三式年祭(御開帳)に向け、展示する資料の一部を前借展示し、式年祭の歴史を紹介します。

事前知識として提供することで平泉寺白山神社の御開帳に対する興味関心を高め、御開帳を楽しみにしてもらえるようにと考えております。

そして、令和7年度の共催特別展は4月の開催を検討しているため、それに向け、準備を続けていく予定です。

当館だけでは出来ない新たな価値を創造する事ができ、また、市のPRの一助にもなり、この記念すべき年に連携のさらなる第一歩を踏み出せればと考えております。

③ 勝山市・勝山城博物館連携

第19回絵画作品展「勝山とお城を描こう」

日程 絵画作品募集期間 令和6年8月10日(土)～10月8日(火)

表彰式 令和6年11月3日(日) 2階障壁画ホール

展示会 令和6年11月3日(日)～11月24日(日)

この絵画展は奥越地区に根付き、長年の積み重ねが評価されて継続事業として続いています。今日、少子化、また、小学校の宿題の量の減少によ

り出品数は減ってきておりますが、勝山の魅力、お城の魅力をより多くの方々に見ていただき、出品数が増えることに繋げていきたいと考えております。県外からの応募もある本企画は、子供から大人まで気軽にご応募でき、展示会には毎回多くの親子連れに足を運んでいただいております。未来の来館者にも繋がるイベントと位置付けています。

(2) 主な貸館事業

①月例茶会の開催

期間 7、10月の第1日曜日（計2回を予定）

会場 2階和室「蘭月の間」

協賛 勝山市茶道連合会

当日ご来館いただいたお客様にお声掛けをし、和室にて本格的な薄茶もしくは煎茶を提供いたします（要別料金）。当館の茶室で気軽に茶道に親しむ機会を提供いたします。

この他にも、随時当館の文化・教育事業に相応しいイベントでの利用を働きかけるとともに、貸館の申し込みを受け付けます。

(3) 学芸活動

① 燻蒸作業は、共催特別展開催のための作品搬入時に、燻蒸庫を利用して行います。（市から規定の利用料あり）館蔵品もその際同時に燻蒸庫を利用して燻蒸するほか、専用の防虫剤・調湿財の設置、除湿器及び加湿器の適切な稼働、さらには日々の清掃によって史料の保存に努めます。

当館の知名度向上に伴い作品寄贈や寄託も増えた一方、収蔵庫や展示室の大規模燻蒸は近年行われていないため、一度燻蒸計画を立てる必要があると考えております。

また、令和7年3月31日をもってエキヒュームS（燻蒸ガス）が使用禁止となるため燻蒸設備の改修を検討いたします。

② 調査研究活動では、引き続き研究会や所属学会への参加を通じて各地の学芸員や研究者との繋がりを確保し、また、勝山市との連携協力や日本博物館協会の全国大会にも参加することで、館としても県内外の機関のネットワークに確実に認知されるよう活動してまいります。

どのような博物館であるかを知っていただくことで、作品貸し出しやその使用料収益、ひいては来館者増にもつながるものと考えております。

③ 平常展示では、地球の環境汚染に伴う気温上昇等で、室温が一定を保つことが出来ない状態の中で、3階平常展示室において展示作品の保存と展示を考え、3階展示会場に空調設備を考えております。

また、作品保護のために定期的な入替えを実施します。甲冑類は原則そのままに、絵画、装束と刀剣の入替えをメインといたします。刀剣・銃砲類のメンテナンスや4階中国刺繍作品の入替えや西脇呉石作品入替えもできるだけ行ってまいります。県内の刀剣協会・書道団体にも当館の展示室をアピールして参ります。

さらに、当館にある左義長櫓(1903年製 下袋田区)は市指定文化財になる予定があり、300年以上の歴史をもつ勝山左義長まつりと共に活用される文化財として紹介していきたいと考えております。

- ④ 館蔵品では、館蔵品コレクションのメンテナンスを考え、武具甲冑の専門家や絵画専門家に修復や保存のためのアドバイスを受けようと考えています。多田清氏よりご寄贈頂いた屏風作品は経年劣化に伴う破損が目立ち、修復も今後検討しなければならないと考えております。
- ⑤ 共催特別展では、勝山市の職員と連携して展覧会を企画してまいります。連携の名を冠するに恥じないレベルの展覧会の質を維持するとともに、博物館にあまり来られない方々や子どもにも分かりやすく、インバウンドに対応した展示方法を模索いたします。

(4) 勝山城友の会活動

- ① 総会・講演会の開催 4月下旬
- ② 館外日帰り研修旅行 6月15日(土)(福井県小浜市)
- ③ 友の会だより第31号の編集・発行
- ④ 写真や版画など各種教室
- ⑤ 博物館事業の作業補助や展示会の監視員ボランティア

(5) 広報活動

主な事業について、各種マスコミでの報道、ポスターやチラシの郵送・配布を行います。勝山市との共催事業については「広報かつやま」への紹介や、チラシの全戸配布などもご協力いただく予定です。また、当館ホームページ及びSNSを利用し、インターネットを通じた情報発信にも引き続き努めるほか、共催特別展、絵画展では新聞折り込みや広告の掲出も検討いたします。

3. 財団運営に関する会議の開催

- (1) 定例及び臨時理事会の開催 2回(事業計画・予算、事業報告・決算)
- (2) 定例及び臨時評議員会の開催 2回(事業計画・予算、事業報告・決算)